
Love for you

かずは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

L o v e f o r y o u

【Nコード】

N 8 6 5 2 D

【作者名】

かずは

【あらすじ】

初の平和短編小説です。 平次、アタシ、今度こそ言うつて決めたわ。たとえ、幼なじみという仲さえ壊れてしまっても。 ハッピーエンドです。ご安心下さい。

（前書き）

以前投稿したものに多少修正加えました。

現在、これに色々なモノを付け加え、連載小説に書き直そうか悩み中です。

感想や評価にそれについて意見も言っていたけると幸いです。

桜の蕾がふつくらと膨らんで、今にもその淡いピンク色の花びらが花開こうとしている。

平次と二人、桜並木を歩いてる。

まあ、二人やって言っても、平次は一人で前を歩いてるんやけど。もうすぐ卒業や。卒業したらアタシと平次は一緒に東京の大学に進学する。

ということは、大阪から初めて離れるわけで。アタシも平次も東京に行くことはあっても、大阪を離れて住むことはない。

「もうすぐやなあ……」

アタシは桜の木を見上げながら呟いた。

「何がや？」

平次は何か考え事をしてるようで。いつもの平次じゃあらへんようやった。珍しい。

「何がって……平次、あさっては卒業式やで」

素直にアタシは平次に言った。せやけど、やっぱり平次はぼーっとしてて。

「……そうやったな」

平次は顔をしかめる。何かあったんやろか。

「そやったなつて……平次疲れてるんちゃうん？大丈夫？」

「大丈夫や……」

「和葉」

急に平次がこっちを向いた。アカン、アタシ、ドキドキするやないか。

「和葉、オレ、オマエに言わなアカンことがあんねん」

何やるか……？まさか、彼女でも出来たんやろか。ここんとこ最近
は、平次の様子がおかしい。

ずっと不安やった。このままアタシはずっと平次に気持ちを伝えら
れないままなんやろか……

三年になる前に工藤君は帰って来て、蘭ちゃんと工藤君はやっと恋
人同士になった。ずっと幼なじみで……でもいつもお互いのことを
1番に考えてて。

工藤君は蘭ちゃんをずっとほったらかして、どんな人なんかと思
ってた。

でもな、工藤君はずっとコナン君として蘭ちゃんのこと守ってたん
や。

何も知らへんかったや、アタシは。

そして

アタシは今も、平次に自分の気持ち伝えてへん。

工藤君と蘭ちゃんみたいに、アタシも素直になれたら

何度そう思ったことか。

でもな、アタシには出来へんかった。平次がどんな風にアタシのこと考えててくれるんか分からへんから、怖いねん。

蘭ちゃんは応援してくれてるけど……でもな、アタシは弱虫やねん。アタシは何も言えへんまま、また一つ節目を迎えようとしてるんや。

でもな、今度こそは。伝えるって決めたんや。
たとえ……平次が今から何を言っただとしても。

「何？」

アカン、アタシの声、震えとる。

でも、でもな……自分に負けへん。何があろうとも……平次と幼なじみの仲さえも壊れてしまっても……絶対に言うんや。

「あんな……オレ」

やっぱり……平次は……

「和葉が好きや」

い、今何て言ったん……？平次。夢やあらへんよね……？

アタシは平次の顔を見上げる。

そしたら、平次の頬が真っ赤に染まってた。アタシの見間違いやない……んよね？

「う、嘘……」

声が震えとる……アカン、涙まででよったわ……

「かつ、和葉！？悪かった、オレが悪かったわ！そやから泣かんとき！！今言ったこと……忘れてかまへんから！！」

平次は、心底驚いてるようやった。でも、アタシは謝って欲しいんやあらへん……

「……違うんよ……平次」

「は？」

「アタシもずっと……」

「……え……」

「ずっと平次のこと好きやってん……」

やっと……やっと言えた、アタシの気持ち。

「和葉……ありがとう」

ずっと……ずっと、この日を夢見てた……アタシは。

「和葉……」

「何なん？」

「はよいくで！」

平次の楽しそうな声が遠くからした。……ん？遠くから？

「へっ！？」

いつの間にか平次はアタシの何メートルも先に行ってた。

「はよせんと置いていくで、アホ」

「アホは余計やつ！」

アタシは平次の所まで走る。いつもなら一人で行ってまっ平次が待っててくれた。

蕾しかないはずの桜並木に、一つだけ……アタシ達を祝福してくれ
るように花を開いている桜が見えたような……そんな気がした。

（後書き）

こんにちは。

かずはです。

前書きにもありましたようにこの場面に至るまでやその後等を加えた連載小説に書き直すか悩んでいます。

もしよければ意見お願いします。

また、YAKUSOKUの方ですが…暗号が一つも届かないために休載中です。

もし、心やさしい方がいらっしゃいましたらメッセージによろしくお願いします。

では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8652d/>

Love for you

2010年10月20日19時23分発行